

令和6年8月29日

令和6年台風第10号に関する説明

この資料は、8月29日12時現在に入手可能な予測資料を用いて作成した説明資料です。
最新の気象情報は、気象台ホームページから確認ください。



京都地方気象台

台風第10号の進路と影響のポイント

- 強い台風第10号は、29日12時現在、天草市付近にあって北に進んでいる。今後、進路を次第に北東から東よりに変え、近畿地方に接近する見込み。**京都府には31日から9月2日頃にかけて最も接近する見込み。**台風の動きが遅いため、影響が長期間におよぶおそれ。
- 台風から離れていても大雨となる可能性がある。29日から9月2日頃は、警報級の大雨となり数日間継続する可能性がある。
- 31日から9月2日頃にかけては台風本体の雨雲がかかるため、広範囲で大雨のおそれ。
- 30日昼前に強風域に入る見込み。31日は暴風の可能性もある。

台風の進路は現時点においても不確実性があり、今後の予報で台風進路が変わる可能性があります。

◆ 常に最新の気象情報をご利用ください。

台風第10号 29日9時現在の進路予想 (予報円の中心を通った場合)

1日09時の予想

強さ —

中心気圧: 990hPa

最大風速: 20m/s (30m/s)

進行方向、速さ:ほとんど停滞

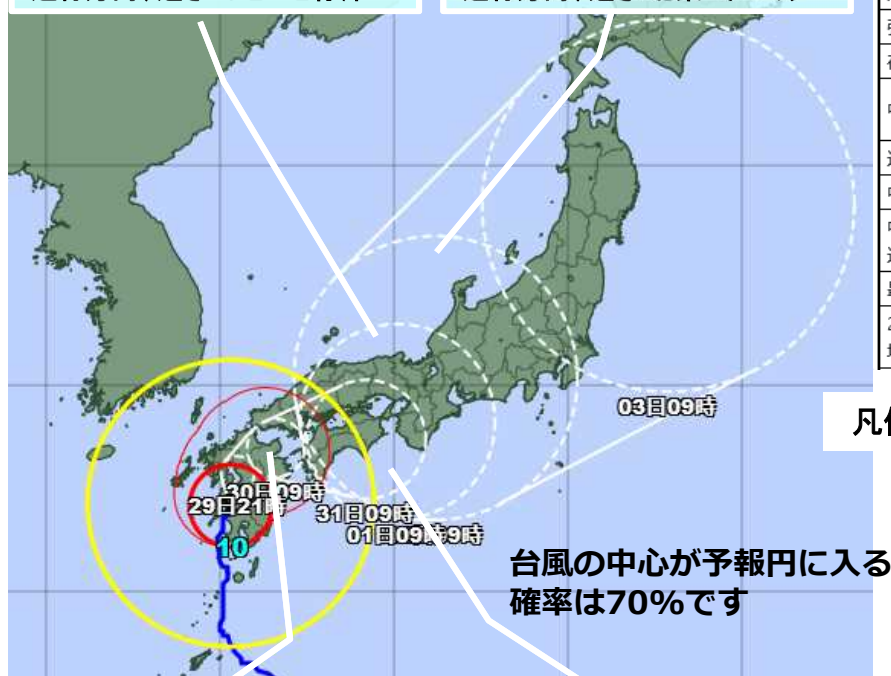
2日09時の予想

強さ —

中心氣压: 994hPa

最大風速: 18m/s(25m/s)

進行方向、速さ:北東 ゆっくり

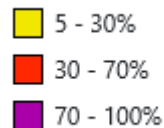


台風の中心が予報円に入る
確率は70%です

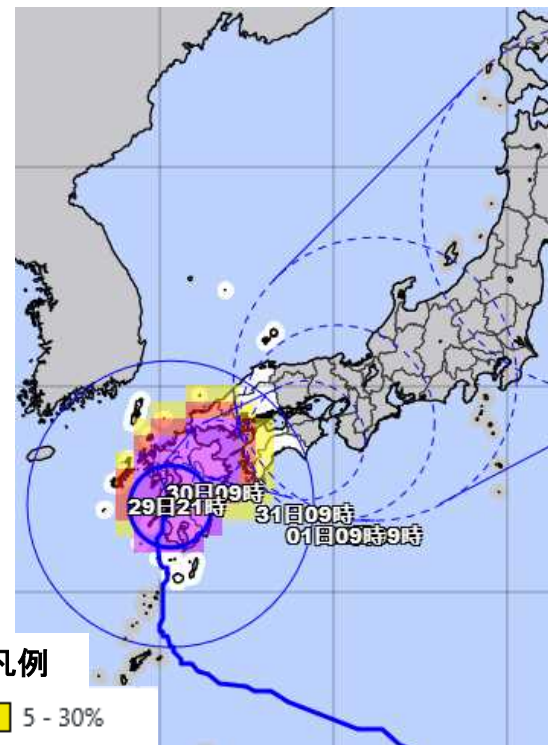
凡例



凡例



暴風域に入る確率



- ❑ 強い台風第10号は、次第に進路を北東から東寄りに変えて、近畿地方に接近する見込み。
- ❑ 京都府には31日から9月2日頃に最も接近する見込み。

台風第10号による京都府への影響の見通し

		29日				30日								31日				1日
		12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-3時	3-6時	6-9時	9-12時	12-15時	15-18時	18-21時	21-24時	0-6時	6-12時	12-18時	18-24時	0-24時
		昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く	未明	明け方	朝	昼前	昼過ぎ	夕方	夜の はじめ頃	夜遅く					
台風最接近														31日から2日頃にかけて接近する				
京都府北部	大雨(浸水) (ミリ)	30	30	30	30	20	20	20	20	30	30	30	30					
	大雨(土砂)																	
	雷																	
	暴風 (メートル)	陸上	10	10	8	8	8	8	10	12	12	12	13	13	15	15	15	15
		海上	13	13	13	13	13	13	15	15	15	18	18	18	18	18	18	18
	波浪 (メートル)	2	2	2	2	2	2	2.5	2.5	3	3	3	3	3	3	3	3	3
京都府南部	高潮 (メートル)	0.3	0.2	0.1	0.2	0.2	0.2	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.5					
	大雨(浸水) (ミリ)	30	30	30	30	20	20	20	20	30	30	30	30					
	大雨(土砂)																	
	雷																	
	暴風 (メートル)	8	8	8	8	8	8	10	12	12	12	15	15	15	15	15	15	15

警報級 注意報級

31日未明には台風本体の雨雲がかかり始める。30日夜のはじめ頃には京都府の広い範囲に警報を発表する可能性がある。

満潮・干潮 舞鶴
2024年8月29日～2024年9月2日の潮位予測

年/月/日(曜日)	満潮								干潮							
	時刻	潮位	時刻	潮位	時刻	潮位	時刻	潮位	時刻	潮位	時刻	潮位	時刻	潮位	時刻	潮位
2024/08/29(木)	9:25	60	*	*	*	*	*	*	18:17	35	*	*	*	*	*	*
2024/08/30(金)	10:39	60	*	*	*	*	*	*	19:10	34	*	*	*	*	*	*
2024/08/31(土)	2:51	54	11:41	61	*	*	*	*	6:06	53	19:53	34	*	*	*	*
2024/09/01(日)	2:44	52	12:33	60	*	*	*	*	6:35	50	20:30	33	*	*	*	*
2024/09/02(月)	2:50	51	13:18	60	*	*	*	*	7:04	47	21:02	33	*	*	*	*

31から9/1の台風最接近と満潮の時間が重なるおそれ

全国

京都府の早期注意情報

発表中の早期注意情報

京都府の早期注意情報（警報級の可能性）

2024年08月29日11時 京都府地方気象台 発表

南部では、30日までの期間内に、大雨、暴風警報を発表する可能性がある。
北部では、30日までの期間内に、大雨警報を発表する可能性がある。

京都府南部		29日		30日		31日	1日	2日	3日
		12-18	18-24	00-06	06-12				
大雨	警報級の可能性	[中]		[中]		[中]	[中]	-	-
	1時間最大	30	30	20	20	30			
	3時間最大	45	45	30	30	45			
	24時間最大	50から100							
暴風(雷)	警報級の可能性	-		[中]		[中]	[中]	-	-
	最大風速	9以下	9以下	9以下	12	15			

京都府北部		29日		30日		31日	1日	2日	3日
		12-18	18-24	00-06	06-12				
大雨	警報級の可能性	[中]		[中]		[中]	[中]	-	-
	1時間最大	30	30	20	20	30			
	3時間最大	45	45	30	30	45			
	24時間最大	50から100							
暴風(雷)	警報級の可能性	-		-		[中]	[中]	-	-
	最大風速	陸上	10	9以下	9以下	12	13		
		海上	13	13	13	15	18		
波浪	警報級の可能性	-		-		-	-	-	-
	波高	2	2	2	2.5	3			
高潮	警報級の可能性	-		-		-	-	-	-

・30と1日の暴風 [中] は [-] となる見込み
・2日の大雨は [中] となる見込み

凡例 [高] [中]

ま と め

京都府には31日から9月2日頃に最も接近するおそれがある。

■ 風

30日昼前には強風域に入る見込み。31日は**暴風警報**を発表する可能性がある。

■ 雨

29日からは大気の状態が非常に不安定となり、31日以降は台風本体の雨雲がかかる可能性がある。

31日以降は広い範囲で**大雨警報**を発表する可能性がある。2日頃まで警戒が必要。土砂災害警戒情報の発表や指定河川洪水予報を発表する可能性がある。

■ 波

30日から9月1日頃は高波に注意。

■ 高潮

31日から9月1日頃は高潮に注意。

■ 31日は大荒れの天気となる可能性がある。不要不急の外出は控えてください。

防災事項

- 土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、強風に十分注意。
- 高波、高潮に注意。
- 竜巻などの激しい突風や落雷に注意

最大 24時間 降水量	期間	29日12時～30日12時
		北部 80ミリ 南部 80ミリ
	期間	30日12時～31日12時
		北部 100ミリ 南部 100ミリ

最大風速 (最大瞬間 風速)	期間		30日	31日
	北 部	陸上	13メートル (25メートル)	15メートル (30メートル)
		海上	18メートル (30メートル)	18メートル (30メートル)
	南部		15メートル (30メートル)	15メートル (30メートル)

波(最大)	期間	30日	31日
		3メートル	3メートル

潮位(最大)	期間	30日	31日
	北部	60センチ	70センチ

今回の台風に備えて

- ◆ 今回の台風第10号の影響で、京都府では大雨による土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫、暴風や高波、高潮などのおそれがあります。お住いの地域がどのような災害が起こりやすいかハザードマップ等で確認するなど、台風への十分な備えをお願いします。
- ◆ 台風第10号は近畿地方へかなり接近する見込みです。気象台が発表する警報・注意報などの最新の気象情報、キキクル（危険度分布）を普段以上にこまめに確認するとともに、市町村からの避難に関する情報等に留意してください。
- ◆ 京都府では、台風の動きが遅く影響が長引くおそれがあります。31日から9月2日頃を中心に、交通機関が大きく乱れる可能性があります。イベントや遠出の予定のある方は、予定を変更するなど、交通機関からの情報に留意してください。また、山や海などのレジャーの際でも気象情報や交通情報に留意してください。

最新の台風情報等に留意してください。

本資料に関する気象台への問い合わせ先：あらかじめお知らせしている自治体回線または報道回線に、ご連絡願います。

參考資料

雨の強さと降り方

雨の強さと降り方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成29年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

時間雨量(mm)	予報用語	人の受けるイメージ	人への影響	屋内 (木造住宅を想定)	屋外の様子	車に乗っていて
10以上～20未満	やや強い雨	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	
20以上～30未満	強い雨	どしゃ降り	傘をさしていてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく		
30以上～50未満	激しい雨	バケツをひっくり返したように降る			道路が川のようになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる（ハイドロプレーニング現象）
50以上～80未満	非常に激しい雨	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	車の運転は危険
80以上～	猛烈な雨	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる				

・(注1) 大雨によって災害が起こるおそれのあるときは大雨注意報や洪水注意報を、重大な災害が起こるおそれのあるときは大雨警報や洪水警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは大雨特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

・(注2) 数年に一度程度しか発生しないような短時間の大雨を観測・解析したときには記録的短時間大雨情報を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味しています。なお、情報の基準は地域によって異なります。

風の強さと吹き方

風の強さと吹き方

(平成12年8月作成)、(平成14年1月一部改正)、(平成19年4月一部改正)、(平成25年3月一部改正)、(平成29年9月一部改正)

風の強さ (予報用語)	平均風速 (m/s)	およそ の時速	速さの目安	人への影響	屋外・樹木の様子	走行中の車	建造物	およその 瞬間風速 (m/s)
やや強い風	10以上 15未満	～50km	一般道路 の自動車	風に向かって歩きにくくなる。 傘がさせない。	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	道路の吹流しの角度が水平に なり、高速運転中では横風に 流される感覚を受ける。	樋(とい)が揺れ始める。	20
強い風	15以上 20未満	～70km		風に向かって歩けなくなり、 転倒する人も出る。 高所での作業はきわめて危険。	電線が鳴り始める。 看板やトタン板が外れ始め る。	高速運転中では、横風に流さ れる感覚が大きくなる。	屋根瓦・屋根葺材がはがれるものがある。 雨戸やシャッターが揺れる。	
非常に強い風	20以上 25未満	～90km	高速道路 の自動車	何かにつかまっていけないと 立っていられない。 飛来物によって負傷するおそ れがある。	細い木の幹が折れたり、根 の張っていない木が倒れ始め る。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	通常で速度で運転するのが 困難になる。	屋根瓦・屋根葺材が飛散するものがある。 固定されていないプレハブ小屋が移動、 転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材) が広範囲に破れる。	30
	25以上 30未満	～110km					固定の不十分な金属屋根の葺材が めくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。	
猛烈な風	30以上 35未満	～125km	特急電車	屋外での行動は極めて危険。	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるものがある。 ブロック壁で倒壊するものがある。	走行中のトラックが横転する。	外装材が広範囲にわたって飛散し、 下地材が露出するものがある。	50
	35以上 40未満	～140km					住家で倒壊するものがある。 鉄骨構造物で変形するものがある。	
	40以上	140km～						60

(注1) 強風によって災害が起こるおそれのあるときは強風注意報を、暴風によって重大な災害が発生するおそれのあるときは暴風警報を、さらに重大な災害が起こるおそれが著しく大きいときは暴風特別警報を発表して警戒や注意を呼びかけます。なお、警報や注意報の基準は地域によって異なります。

(注2) 平均風速は10分間の平均、瞬間風速は3秒間の平均です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍程度になることが多いですが、大気の状態が不安定な場合等は3倍以上になることがあります。

(注3) この表を使用される際は、以下の点にご注意下さい。

1. 風速は地形や周りの建物などに影響されますので、その場所での風速は近くにある観測所の値と大きく異なる場合があります。
2. 風速が同じであっても、対象となる建物、構造物の状態や風の吹き方によって被害が異なる場合があります。この表では、ある風速が観測された際に、通常発生する現象や被害を記述していますので、これより大きな被害が発生したり、逆に小さな被害にとどまる場合もあります。
3. 人や物への影響は日本風工学会の「瞬間風速と人や街の様子との関係」を参考に作成しています。今後、表現など実状と合わなくなった場合には内容を変更することがあります。

段階的に発表される防災気象情報の活用例

5段階の警戒レベルと防災気象情報

気象状況	気象庁等の情報			市町村の対応		住民がとるべき行動	警戒レベル	
数十年に一度の大雨	大雨特別警報	災害切迫 キキクル	氾濫発生情報	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保！ ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	5		
＜警戒レベル4までに必ず避難！＞								
大雨の数時間～2時間程度前	土砂災害警戒情報	高潮警報	高潮特別警報	危険	氾濫危険情報	避難指示 第4次防災体制 (災害対策本部設置)	危険な場所から全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
	※大雨警報 洪水警報	高潮警報に切り替える可能性が高い 注意報	警戒	氾濫警戒情報	高齢者等避難 第3次防災体制 (避難指示の発令を判断できる体制)	危険な場所から高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3	
	大雨警報に切り替える可能性が高い 注意報	高潮注意報	注意	氾濫注意情報	第2次防災体制 (高齢者等避難の発令を判断できる体制)	自らの避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2	
大雨の半日～数時間前	大雨注意報 洪水注意報			第1次防災体制 (連絡要員を配置)				
大雨の数日～約1日前	早期注意情報 (警報級の可能性)			・心構えを一段高める ・職員の連絡体制を確認	災害への心構えを高める	1		

※ 夜間～翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3(高齢者等避難)に相当します。

「避難情報に関するガイドライン」(内閣府)に基づき気象庁において作成